

会 議 名	第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 28 年 7 月 1 日 (金)		
開催場所	こども未来創造館 多目的室 1		
開催時間	13 時 00 分開会 ~ 15 時 15 分閉会		
出欠状況	委員現在数	10 名	
	出席委員数	10 名	
出席者(敬称略)	出席	委員長	宮田 隆志 (東京大学大学院理学系研究科准教授)
		委員	池田 幸也 (常盤大学コミュニティ振興学部学部長)
	欠席	委員	井徳 正吾 (文教大学情報学部情報社会学科教授)
		委員	小森 伸一 (東京学芸大学教育学部健康スポーツ科学講座准教授)
		委員	伊志嶺 絵里子 (東京藝術大学音楽学部非常勤講師)
		委員	林 克彦 (石洞美術館学芸員兼事務局長)
		委員	田中 則聡 (足立区立小学校 P T A 連合会会長)
		委員	大林 英夫 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	勝倉 秀一 (一般公募)
		委員	山崎 千枝 (一般公募)
事務局	子ども家庭部	部長	鳥山 高章
	子ども家庭部青少年課	課長	寺島 光大
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	中島 宣幸
	青少年課ギャラクシティ支援担当		上野 兼司
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	浅見 信昭
	地域文化課文化団体支援係	係長	金子 良一
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子
	指定管理者	館長	
副館長			俣田 浩昌
副館長			上神田 奈子
前副館長			上遠野 めぐみ

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 資料確認 4. 指定管理者からの説明、ヒアリング 5. 意見交換 6. 事務連絡 7. 閉会
<p>配布資料</p>	<p>資料1 「第2回議事録(案)」</p> <p>資料2 「平成27年度運営評価委員会 採点票」</p> <p>資料3 「平成26年度運営評価委員会 評価書(参考)」</p> <p>資料4 「平成26年度運営評価委員会 評価項目ごとの採点一覧(参考)」</p> <p>資料5 「平成26年度運営評価委員会 評価採点票委員所見まとめ(参考)」</p> <p>別紙1 「第2回運営評価委員会委員意見交換にて」</p> <p>別紙2 「追加質問について」</p>

寺島課長	<p>< 1 . 開会 ></p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。これより、第3回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきます。それでは開会に先立ちまして、宮田委員長より、ご挨拶を賜りたいと思います。</p>
宮田委員長	<p>< 2 . 委員長挨拶 ></p> <p>前回の会議では指定管理者より事業内容についてご説明をいただき、意見交換をさせていただきました。その内容について、本日は指定管理者より回答をいただき、また本日は追加の説明を受けて、採点に向けて充実した議論をさせていただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。</p>
寺島課長	<p>それでは、ここからの進行は、委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
宮田委員長	<p>ただいまから、足立区ギャラクシティの平成27年度運営にかかる、第3回運営評価委員会を開会いたします。まずは、本日の資料について、事務局からの確認をお願いしたい。</p>
中島係長	<p>< 3 . 資料確認 ></p>
宮田委員長	<p>それでは、前回の会議、また追加でいただいた委員の皆様からのご質問やご意見について、指定管理者からご説明をいただきたい。</p>
黒川館長	<p>< 4 . 指定管理者からの説明、ヒアリング ></p> <p>委員の皆様からいただいたご意見、ご質問について、概要を述べさせていただきます。いただいたご質問は、主に8つ程あった。1つ目のボランティアの活動については、館の事業の中での位置付けは、中核的な位置付けだと考えている。地域の方々が、自分たちの経験を子どもたちに伝えていくことが大切だと考えている。スタッフや講師の方がやるのと同じ形よりも、むしろ中核的な形で位置付けている。2つ目の足立区民の優遇策については、館としては、公共施設として足立区民の方々に積極的な優遇策は必要であり、実施していきたいと考えている。しかし、採用時期や優先枠の設定、優先割合については、設置条例との兼ね合いもあるため、行政の意向に従い実施していきたい。3つ目の文化ホールの事業配分については、年間で事業本数が決められている。4つ目のデータベースの蓄積については、ギャラクシティとしては簡易的なアンケート集計に留まっているため、データベース化したり、分析・解析したりすることは、第三者機関による調査も含めて必要であると考えている。しかし、指定管理期間中には調査に要する予算措置がされていないため、別途予算措置が必要ではないかと考えている。5つ目の事業実施数の適正性については、リニューアルオープンしてから3年間は、ギャラクシティが足立区内のみならず、なるべくメジャーな施設になろうと運営</p>

	<p>してきた。いずれにしても、いつかは量的拡大から質的な進化が必要になってくる。それについても、足立区の意向を賜りながら行っていきたい。6つ目のエリアマーケティングについて、27年度のエリアマーケティングは、やや企業やメディアへの媒体露出に重点を置いていたので、今後については、足元である足立区内のマーケティングを丁寧に実施していきたい。7つ目のスタッフの労働安全衛生管理（離職率）については、一般的に見ても、ギャラクシティの離職率は決して低くはない。少数精鋭のスタッフで運営しているため、ともすればハードワークになってしまうため、スタッフの体調管理の確認を、今後もしっかり実施していきたい。8つ目の来館者の顧客満足度については、館としても非常に重要であると考えている。ギャラクシティでは、毎年目標管理制度をスタッフに実施している。スタッフの目標管理制度の重要テーマが顧客満足度である。来館者に満足していただくために、スタッフが自ら何をすべきかを考えさせて、目標を設定させている。以上が、委員の皆様よりいただいたご質問、ご意見に対する回答である。</p>
宮田委員長	<p>それでは、説明を受けてご質問があればお願いしたい。</p>
池田委員	<p>別紙1、資料1 - の登録者内訳については、ボランティアの登録者数ということでしょうか。</p>
俣田副館長	<p>ボランティアの登録者数である。</p>
池田委員	<p>別紙1、資料3のボランティア参加者延べ数について、この人数について、例えば1名というのは、1名の方がボランティアとして、主催をして事業を行ったという意味で良いのか。</p>
俣田副館長	<p>そう捉えていただいても結構である。ただ、ボランティアの方だけでやっていただくのではなく、ボランティア担当のスタッフが付きながら、ギャラクシティの活動目的に合わせて行っている。</p>
池田委員	<p>ボランティア主催事業というのは、ギャラクシティのボランティアの方が主催する事業として、指定管理者の事業とは別と考えて良いのか。</p>
俣田副館長	<p>一緒になって作り上げているという意識で行っているが、館には無いボランティアの方が持っている知識や能力があるので、ボランティアの方が主導してスタッフがサポートしている。</p>
池田委員	<p>ボランティアの登録団体について、別紙1、資料3に5団体記載されているが、この団体は足立区内で他の活動もされているような団体なのか。</p>
俣田副館長	<p>他でも活動されているようだが、細かくまでは把握できていない。</p>
池田委員	<p>参加しているボランティアの方や団体は、足立区民以外の方もいるのか。いるとすれば、割合はどれくらいか。</p>
俣田副館長	<p>足立区以外の方もいる。割合まではデータ化できていないが、足立区民の割合が多い。</p>

池田委員	<p>ギャラクシティが担っている事業に、ボランティアの方をどう一緒になって活動していくか苦労していると思うが、現状でさらに区民の方に参加や協力がいただけそうな活動内容を考えているのか。また、ボランティアのコーディネートをしていくのが大変だと考えるが、現状でコーディネートをしているスタッフの方は、他の業務も兼務しているのか。兼務しているとすれば、どのような業務を兼務しているのか。さらに、登録団体については、様々な活動をされていると思うが、新たに区民の参加を促していくような役割や活動を考えているのか。</p>
俣田副館長	<p>27年までは、どちらかというと門を広く開けて、ボランティアの方の得意な分野をやっていただく、あるいは館の事業を伝えながら参加していただくのをコンセプトにやっていた。しかし、27年の暮ぐらいから、専門的なボランティアの力を借りた方が、より深い講座ができ、ボランティアの方々も、自分のやりたいことをはっきりニーズとして持っていることがわかった。そのため、スタッフもボランティアも学びながら、専門分野に特化した方が、よりボランティアの方が力を発揮できると考え、デジタルメディア事業のサポートボランティア事業を開始した。まだ始めたばかりなので、今後広がりができるのではないかと考えている。今後は、狭く深くやっていくことが良いのではないかと考えている。また、スタッフの担当については、1名のスタッフがまず担当している。その1名は他の事業も担当し、主にデジタル事業系を担当し、ボランティアが関わる事業に対しては、担当者も一緒にやるようにしている。最後に、登録団体については、現状の役割を広げていくところまでは着手できていない。講座の内容を切り替えたり、さらに回数を増やしたり、今後の対応を考えていくのは課題であると感じている。</p>
池田委員	<p>ボランティアの活動については、よりの絞って、実績を挙げられる見通しがあるところに、焦点化して取り組む現状にあるということか。</p>
俣田副館長	<p>人数が多くないので、的を絞って、確実にやっていくべきところに投資をしている。</p>
池田委員	<p>より多くの区民の方がボランティアとしても参加していただくために、専任のコーディネーターがいると良いと感じた。</p>
宮田委員長	<p>専門性のあるボランティアの方というのは、どういう内容の活動をされているのか。</p>
俣田副館長	<p>例えば、デジタルメディア事業では、パソコンを使った事業を行っている。これから日本の教育の中で、デジタル系の授業を進めていくことが課題として出ているので、ギャラクシティでもそれに合わせて進めている。ボランティアの方の年齢を見ると、大学生ぐらいの方から、会社を退職された方など、デジタルスキルを持った方に入っていただいている。その他にも、東京大学の先生にも協力をいただき、進め方や専門的な教え方を学びながら行っている。活動は水曜日の夕方に実施し、足立区民の方に参加していただいている。また、土曜日と日曜日にも不定期で実施している。</p>
黒川館長	<p>他に委員の皆様から追加でいただいたご質問について、ご説明させていただきます。</p>

	<p>まず、(管理運営体制)について、清掃状況のアンケートで0.5%良くなかったとの意見について、館としても内容は十分に把握している。内容としては、主にトイレのシンクや鏡など、手を洗った際に水しぶきなどで汚れてしまうのが原因である。常に清掃スタッフが巡回して清掃を行い、対応を行っている。鏡の前にはスポンジを置くなどして、誰でも拭けるような状態にしている。その他としては、トイレトペーパーのいたずらをする方がいるため、スタッフが注意深くチェックしている。(子ども体験事業)について、近隣施設とのコラボレーションは、非常に大切だと考えている。現在でも出張プラネタリウムについては、東京未来大学や足立区生物園、越谷レイクタウンに出向いている。要望は多く、かなりの頻度で行い、限界に近い頻度で行っている。(まるちたいけんドーム活用事業)について、雨天時の場合は、主に座学が中心となり、望遠鏡の取り扱いなどについて学び、雨天時のプラネタリウム実施は行っていない現状である。(文化事業)について、今後の広報活動の企画については、従来からチラシをギャラクシティの入り口に配架するなど、少しずつ実施しているが、今後はチラシやリーフレット類の手配りなどを実施していきたい。</p>
宮田委員長	<p>それでは追加質問の回答も含めてご質問がればお願いしたい。</p>
伊志嶺委員	<p>文化ホールの事業配分について、なぜ質問させていただいたかという、西新井文化ホールそもそものビジョンについて、子ども向けから大人向けまで幅広く展開する中で、どういう方向性を見せたいのかわかりにくかったので、質問させていただいた。その点について、改めてお聞きしたい。</p>
上遠野前副館長	<p>子どもから大人まで楽しめるように、幅広く事業を行っている。大人向けの事業についても、それぞれの公演の際にアンケートを実施し、アンケートの中から要望の多いものを取り入れ、寄席や演歌などのラインナップを組んでいる。今後についても、お客様のご要望を取り入れながら、西新井文化ホールらしさを出していきたいと考えている。</p>
伊志嶺委員	<p>西新井文化ホールの特色がもう少し出てくると良いと感じた。アンケートで区民の方が望んでいる公演をやると、確かに集客力は良いが、他でやっていないような公演を実施すると、他からも注目が集まる。足立区でしか聞けないような公演をすると、足立区に住んで良かったとか、生きがいをいただけたなど、計量的な評価とは違った、もう少し定性的な面で評価に繋がることもあるので良いと感じた。</p>
黒川館長	<p>足立区内にはシアター1010があり、演劇等を多くやっている。西新井文化ホールでは、シアター1010とは違った児童向けのものをやったり、クラシックに重点を置いてやってみたり、年度ごとに変えてシリーズ化してやる方法もあるのではないかと考えている。</p>
井徳委員	<p>ギャラクシティは、足立区のイメージ向上に最終的には繋がったら良いということを目的に設定していると考えているが、ギャラクシティの運営を足立区が行っているということ、どれくらいの人が認識しているのか。自分たちが住んでいる足立区が運営している施設としての認識が広がれば、区民の意識向上に繋がるのではないかと思う。もっと足立区立の施設との認識が区内外に広がれば、足立区のイメージ向上に結び付くと思う。どれくらいの人が、</p>

	区立だと認識しているか、一度割合を知りたいところである。
俣田副館長	週末など、列整理などで現場に出てお客様と話をする中、その中で聞くのは、足立区には素晴らしい施設があるとの言葉をいただいている。特に足立区外からお出かけ雑誌を見て来館していただいている方が多く、皆さん足立区が運営している施設だと認識しているようである。何故かという、無料で運営されているということと、学習施設としての打ち出しをかなり強く出していることで、学習施設＝公共施設というイメージが直結しているようである。
井徳委員	来館したことがない方の中には、足立区の施設だと知らない人もいるのか。
山崎委員	この前友人とギャラクシティについて話をした際、足立区が運営していて、足立区の税金が投入されているのを知っているか聞いたところ、ほとんどの方が知らず、また来館したことがある人も少なかった。
井徳委員	足立区内からの集客が少ない現状に、自分たちの税金でまかなわれている施設という意識が足立区民に伝わると、一度行ってみようという気持ちになるのではないかと。
俣田副館長	足立区内の小学校には、イベント情報チラシを全校配布している。それが保護者の方などにどこまで伝わっているかわからないところはある。未就学児を持つ保護者の方などには、十分伝わりきれていないところはあると思う。
宮田委員長	前回の評価委員会で意見として出された、足立区民の方に優先的に利用を広くしていただくための観点について、足立区が施設設置者としてどのような運営方針をしていくかにかかっているとの回答をしているが、もう少し区側との話が密にあってほしいように思った。足立区の方針があって、指定管理者としてもこうしていきたいという考えが、もう少し明確にあってほしいのかなと感じた。
黒川館長	指定管理制度の中で、募集要項があり、それに対して指定管理者が提案書を出し、最終的に選定していただき、運営を行っている。募集要項の中では、細かく仕様書等で決められている。館としては、仕様書に立ち返り、また設置条例に基づいて運営を行うようにしている。また、ギャラクシティは利用料金制を取っておらず、プラネタリウムなどの歳入については、足立区の歳入となっている。したがって、現在第2、第3土曜日は足立区民無料日となっているが、館側が勝手に他の日に無料日などを設定することはできず、足立区的意思決定が必要である。
宮田委員長	今の話の中で、仕様書についての話があったが、それら元々のミッションに対して、現状指定管理者としては、どのように考えているのか。足立区民の利用が少ないのは問題だと考えているのか、それともそれ程大きな問題とは捉えていないのか。
黒川館長	まず、足立区のギャラクシティであり、東京都のギャラクシティ、そして日本にギャラクシティありと、とにかくメジャーになりたいと考えて運営してきた。青山のこどもの城が閉館

	<p>したこともあり、足立区のみならず、都民のオーダーもあると考えている。量的拡大にこだわっているわけではないが、なるべく多くの方に、足立区内外を問わず来館していただきたいと考えている。3年目を迎えて、利用者数の記録を更新したこともあり、流れの中でステージを考えていきたいと考えている。</p>
勝倉委員	<p>まず有名な施設になるというのは正しいことだと思うが、せっかく有名になってきているように見えて、実は足立区内では有名になっていないことが問題であるので、ぜひそこは改善していただきたい。</p>
山崎委員	<p>放課後の学童保育の方々の利用もあるのか。</p>
俣田副館長	<p>近隣の島根小学校の子どもなどは、子ども同士で放課後ガレージなどに来ている。</p>
宮田委員長	<p>ギャラクシティには、4つのカテゴリーがあり、ミッションを持っている場所だと思っているが、その目的に対する達成度をどう埋めていくか、そういう観点での評価も重要だと思うが、その辺りについて何か推し測れるようなことを考えているのか。</p>
黒川館長	<p>ギャラクシティのスタッフが心がけているのは、参加者の表情や、アンケートを記入していただいている時に声をかけさせていただき、様子を伺っている。ただし、きちんとした満足度を計れるようなデータ集計はできていない。</p>
宮田委員長	<p>顧客満足度という意味では、来ていただけるものを用意するというのは非常に重要だが、一方で来ていただければ何でもいいというわけではないので、現在のミッションに沿う形でいいものを用意していかなければならないが、その点についてどう考えるか。</p>
黒川館長	<p>なるべく多くの方に来ていただきたいのも事実だが、一方で万人受けするメニューでもって、運営していこうとは考えていない。例えば西新井文化ホールであれば、年配の方のニーズを把握したり、チケットの売れ行きをチェックしたりすることで分析を行い、様々な形で運営していくことが可能であると考えている。</p>
	<p>< 5 . 意見交換 ></p>
宮田委員長	<p>それでは、これから意見交換を行う。本日の回答、また前回の内容も含めて意見交換をしていただきたい。</p>
山崎委員	<p>足立区民の利用について、どのように考えるべきか分からなくなった。先ほど事業者の方が言っていた、たくさんの事業をして周知を図るというのももっともだと思っている。一方、区民の利用に対してはどのようにしていったらいいのか。皆さんはどのように考えているのか。</p>
田中委員	<p>この施設は収益だけを重んじて利用してもらおう施設ではなく、レジャーランドとは異なる。</p>

	<p>周知を図った結果、キャパシティがパンク状態になって、少数精鋭のスタッフやボランティアが不足してしまうと、そのバランスが問題である。集客をする方法はたくさんの媒体があるが、館は機能するのか。</p>
大林委員	<p>4～5年前にこども会を連れてギャラクシティに来た際、一時に100人を連れてくるとどうにもならず、館が受け入れできない。そのため、1～2時間で飽きて「帰ろう」ということになってしまう。また、「行っても楽しめる時間がなく、朝から晩まで少人数で行くことで遊べるところだ」という思いにもなってしまう、リピーターがつかない。ママ友間で宣伝して大勢来るのもいい、不完全燃焼で帰ってしまうのではないか。</p>
山崎委員	<p>足立区民への還元をギャラクシティに求めるのは間違っているのだろうか。区のもので、私たちが税金を払っているのだから私たちが使いたいという気持ちも残っているが、どうしたらいいのか。事業者の方に改善してほしいと伝え、例えば区民限定の時間帯を作してほしいと伝えることはできるか。</p>
寺島課長	<p>区としては、ギャラクシティは区のイメージアップを発信する施設であると同時に、毎年5億円の予算を投入している区民のための施設であり、この2つを両立する必要があると考えている。25年度のリニューアル当時は区外6割・区内4割程度の利用率だったが、だんだんと区外の利用が増えてきたことは明らかである。区の施設である以上、区民の方の利用を大切にしていく必要があり、その中で「ギャラクシティは混んでいる」というイメージができてしまっているので、ギャラクシティに来られないお客様にはアウトリーチで魅力を届けていくことを検討している。施設側にも要望を伝えているが、実現はまだ難しい。文化事業についても、指定管理料の中には文化事業のための予算があるので、それを使って区民にいかにも還元するかを投げかけている。子ども事業同様、区民のために還元していきたいという強い思いがある。今年度から若干の区民割引を設けるなどしている。また今後は、いくつかの区民優先枠を設けるのも一つの策ではないかと考えている。いずれにしても区民のために何かできないかという問題意識は持っている。</p>
伊志嶺委員	<p>文化事業に関して気になっていたのは、アウトリーチがあまりされていないということである。区民の方に還元するために、例えば公立の小学校などに還元するというような検討をすると良いのではないかと。様々なホールでアウトリーチはやっていて、それは取り入れてもいいのではないかと。</p>
大林委員	<p>私も同じ区民でいながら、ギャラクシティの落語や音楽などの文化事業は、一般区民に浸透していないと感じる。西新井、西新井大師などにはお年寄りがたくさん来ていて、西新井大師にバスを使って無料で行ったというような話は聞くが、ギャラクシティに行ったという話はあまり聞かない。ギャラクシティのお年寄り向けの落語にも気軽に行けるような形にしていけるように、たくさんキャパシティのある文化事業の宣伝をしていくべきである。また、ママ友の間でも知らない人がいるというように、チラシを配っていながらも、どの層の誰が読んでいるのかが分からない。子ども達が学校からもらって保護者へ持って帰っても、少しだけ読んで終わりかもしれない。また一方で、このような事業があるからと何十人も連れて</p>

	<p>くるともう受け入れきれないという実態もある。検討されている事業を見ていると、大人も見てみたいという気持ちになるので、ギャラクシティは足立区でいいことをやっているという意識付けを、宣伝・周知していくべきである。</p>
中島係長	<p>ギャラクシティでも広報事業として、電車の中吊りや駅周辺ポスターの掲示をしている。ただし、区外からの人が多くなっている状況で、区外に目を向けるよりも区内に対しての広報が重要ではないかということで、今年度は区内のはるかぜバスに中吊り広告を出している。これは昨年度の実施ではないが、既にそのような意識改革はある。</p>
池田委員	<p>まずは知っていただくのが出発点、というのは確かにそのとおりである。ただ、来ていただいた時に混雑していてゆっくり出来なかったとすると、もう来ないことになってしまう。お客様がまた来たいと感じ、ギャラクシティとマッチすることが必要である。また、ホールなどの事業に参加するために来る仕掛けの他、散歩コースだから少し立ち寄りといった利用の仕方もあるはずである。そのような方が居場所として過ごせるスペース、雰囲気があるかということも工夫できるといい。また、そのような場所があるということが口コミで地元広がるといい。</p>
田中委員	<p>利用率をスポットで上げるのであれば、学校の教職員の先生には負担をかけてしまうが、例えば土曜授業などで近隣小学校から、町探検的な取り組みでギャラクシティに来館すれば必然的にパーセンテージは上がる。</p>
池田委員	<p>施設の中にカフェがあるが、その他、1階にオープンスペースとしてゆっくり座る場所が少ないと感じる。防犯の面などもあるが、座れるスペースはあるのか。</p>
中島係長	<p>1階は座れるスペースはなく、ものづくりなどの事業スペースのみ。外に長いすがあり、ギャラクカフェの辺りで、土日にお弁当を持ったご家族がいらっしゃることはあるが、館内にはない。また、2階、3階に円形のテーブルがあり、子ども達がそこで宿題をするようなことはある。</p>
宮田委員長	<p>文化ホールのアウトリーチなど、ギャラクシティに来館していただく以外の方法で、館としてのミッションを達成できる手段もあるとよい。広報をして来てもらうだけではなく、他にもこういうことがあります、というのを発信していけると面白いのでは。広報物は旅行社のチラシのようで、公共施設っぽくはなくていいのかもしれないと感じる。</p>
池田委員	<p>駅からギャラクシティに来るためのアプローチについては、歩道の植え込みには矢印が描かれており、また大きな看板が駅の階段を降りたところにある。しかし、元々ギャラクシティに来ようと思っている人は見て来られるだろうが、駅を利用している人がここにあると認識することが難しいかもしれない。</p>
寺島課長	<p>路面の標示を見て、辿ってくるができるようにはなっている。</p>

池田委員	<p>ただ、来ようと思う方じゃないとギャラクシティがあると気付かない。また、地元のボランティアの方がギャラクシティを応援したいと思うような場所になると良いのだが、指定管理者側に余裕があり、ボランティアを受け入れるキャパシティがあるか、という問題がある。地域の方々と一緒に事業に取り組み、可能性が広がり、運営がやりやすくなるといい。しかし実際には、目の前の事業の工夫が手一杯で、ボランティアを増やしていくためには、さらなる人員配置が必要だと感じる。評価をするにあたり、まずは利用者を増やすという指定管理者の考えと、ボランティアの問題というどちらの基準で考えるのが難しい。</p>
村上係長	<p>ボランティアについては、公募の資料に改善の余地があったと考えている。当初、基本計画と事業計画を基準として要求水準書を作り、提案をしてもらうということにした。これらの計画の中では、足立区の子ども達にどのような豊かな体験を与えるかが最大の狙いであり、この施設を区民の方と一緒に創り上げていくことに重きを置き、要求水準書、仕様書を作った。しかし、それに対する館側の理解が十分ではないようである。ボランティアについてもそのような状況がある。別紙1ではボランティアが117名登録されているが、活動集計の1番から28番までは、リニューアルオープン前から関わりのある方で、リニューアル後の関わりは29番から33番、そしてその他のグループでの活動である。説明会への登録者数は多いが、実際の活動は少なく、そこまで対応しきれていないという状況がある。想定外の利用者の多さに対応が追われ、がんばっていただいているが、基本的な狙いはまだできてない。また、アウトリーチもできてない。例えば、西新井駅の近く、西新井第二小学校という少し離れたところでは、ギャラクシティが遠いから行かないという声がある。そのようなところにアウトリーチでまず届けて、知ってもらって、楽しそうなところだから来てもらう、というような大事な取り組みが、仕様書にも入れているがまだできていない現状がある。</p>
鳥山部長	<p>ボランティアの方々と一緒に取り組むという感覚があまり無く、自分たちのやっている事業のためのボランティア、手助け、という状況が見えている。それで開館後のボランティア数が増えていないのではと考えている。</p>
池田委員	<p>何かやりたいという方々をコーディネートする人が必要となる。ボランティアの中でそのような人が出てくることもあるが、いきなりそれは難しく、職員の中でそのような役割を担う人がいないと難しい。広範囲な分野や人との関係、地域との連携をする上では、専門のコーディネーターがいないと難しい。ただ、指定管理者にこれを要求するのが難しいのかもしれない。</p>
寺島課長	<p>ボランティアの育成も含め、指定管理者がしなくてはいけないことにはなっているが、指定管理者としても、区としても想定外の人数が来ており、そちらの対応に人数を割くしかない現状にある。ボランティアとの活動は、区側の人間が手助けしながら繋いでいるところである。</p>
村上係長	<p>ボランティア登録団体5つのうち、4つは足立区の青少年課が育てたグループで、現在もサポートをしている。</p>

小森委員	<p>そもそもギャラクシティの位置づけ、狙いを考えると、地元の子ども達に体験の機会を提供して育てていくという社会教育施設の一環である。そこが少し忘れられているのかなという感じはあり、この施設自身の課題になるのではないかと感じている。ただ、評価についてはそのような視点はなく、行った事業に対してサービスや安全管理がどうだったかという視点になっている。そのため評価には直接関係ないかもしれないが、これはすごく大事だと考えている。地元の子ども達ができるだけ活用するような運用のあり方が模索されるべきである。また、今後の区の施策として、地域で子ども達を育てるための拠点として、こういう体験の施設があるといいかなと思う。方向性を打ち出してしっかり取り組んでいく方法が課題となるのではないか。それができると、足立区の教育力が向上し、さらには都、国への発信、モデルになる、足立区がいい教育をしていると、さらにアジアや世界にも発信していける。本来あるべき姿は教育で、アミューズメントパークではない。</p>
寺島課長	<p>今回の採点項目では、今の教育の観点を入れることは難しいが、それとは別に委員の皆様それぞれが見所を入れる欄もあるため、文章でそこに入れていただければありがたい。</p>
山崎委員	<p>ギャラクシティは足立区のための施設、教育のための施設として考えて間違いはないか。</p>
寺島課長	<p>当初からそのように運営しているが、区外からもたくさん人が来ているという現状はある。ただ重視しているのは区内の子ども達のための還元である。</p>
池田委員	<p>出尽くしていることかもしれないが、地元の教育機関との連携、また商店街との連携などもしているが、具体的に何を連携しているかが重要で、全てとは言わないが、一緒に相談して何かを作るところから始めるような方法が必要である。施設や設備を生かしたものだけではなく、地域のいろいろな社会資源と一緒にやらないとできないような事業開発がもっとあると良く、いろいろと深く関わる機会になるのではないか。また、一般的にどこの地域でも、社会福祉協議会がボランティアセンターを持ち、学校教育などにプログラム提供をするようなことをしている。そのような事業体と連携した事業を考えることもできるのではないか。そのような事業を通じ、施設のユニバーサルな利用がどのように可能なのか、体験を通じて学習する機会もあるのではないだろうか。</p>
寺島課長	<p>外部との連携という意味では、まだまだできていないところも多く、今後の課題である。例えば近くのアリオとの連携についても、区側がリードを取っているところである。</p>
林委員	<p>この建物には、外から来た時のわくわく感が足りないと感じた。一昨年に初めて来たが、入り口がぱっと見てわからない。中に入ると凄く楽しいわくわく感があるが、外側がそのような感じがせず、また人が通っている雰囲気があるわけではない。入りたくなるような仕掛けがあれば、ここの近くの人に対するアピールになるのではないか。また、前回私が言及した離職率の件については、思ったより高いと感じた。27年度は22.4%だが、3年間で見ると41.3%というのは、25,26年度についてはこれ以上の人がやめているということである。最初にいた人たちが、期末には半分近くの人がいなくなっている。文化施策は長い目で見ると思っているので、経験を積んだ人たちがやめていくのはもったいない。27年度は少し改善した</p>

	<p>ようなので、さらに改善してほしい。ところで、私の石洞美術館では6月19日まで伝統工芸日本金工展という展覧会を開催していたが、それに合わせて足立区の小中学校の児童生徒全員に招待券を作った。配布した48,000枚中、300人くらいは来館したのだが、親が興味を持たないとなかなか来館しない、と感じた。親も巻き込む企画がギャラクシティでも何かあると良い。</p>
小森委員	<p>違う質問になるが、足立区のキャラクターはあるか。</p>
寺島課長	<p>ビューティフルウィンドウズ運動のビュー坊や、環境関連のミリー、ドリー、リリーというようなキャラクターがいる。</p>
小森委員	<p>館の外側にそういうキャラクターを飾っても面白いのではないかと感じた。</p>
村上係長	<p>リニューアルオープンの時には、限られた予算の中で外観を直せず、清掃程度しかできなかった。館内の設備や空調などに多くのお金をかけた。また、文化ホールの中もあまり変えられなかった。</p>
宮田委員長	<p>ではここで採点について相談をさせていただきたい。採点票の点数と所見を書いていただくが、点数の付け方を相談しないとなかなかイメージがつかない。4段階評価となっており、26年度の評価については細かい資料がついている。この資料のうち、AからIまでは各委員の点数となっている。どう付けるべきか難しいが、最終的な評価書の中でABCDと評価が分かれており、それぞれ良好である、適正である、課題がある、至急改善が必要である、という内容に対応している。このイメージを各項目の3,2,1,0点に当てはめるのはどうか。この上で、皆様の評価のイメージがあまりにもずれているといけないので、次回の会議で議論しつつ、極端に偏らないように相談できれば良いと思う。</p>
寺島課長	<p>各委員の点数を積み上げて、それを平均して最終評価のABCDになる。0点はDの至急改善が必要、3点はAの良好、のようなイメージでつけていただいて、こちらで集計し、次回皆様に見ていただくということである。</p>
小森委員	<p>2.5点などはないのですね。</p>
寺島課長	<p>前期にもそのようなご意見をいただいたが、今回の評価は小数点以下はなしでお願いしたい。</p>
林委員	<p>採点にあたり、足立区所見についての質問は可能か。</p>
寺島課長	<p>可能である、事務局までお願いしたい。</p>
宮田委員長	<p>では意見も出尽くしたので、以降は事務連絡とする。</p>
寺島課長	<p>< 6 . 事務連絡、次回日程確認 ></p>

宮田委員長	<p data-bbox="323 107 483 138">< 7 .閉会 ></p> <p data-bbox="323 203 1477 282">以上をもちまして、足立区ギャラクシティの平成27年度運営にかかる、第3回運営評価委員会を終了とさせていただきます。</p>
-------	--